

Together

Guide to
Designated Cancer Hospital
Specializing in Breast Cancer

Vol. 06, Winter 2016

博愛会は、今年創立70年目を迎えます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、格別のご厚情を賜り誠にありがとうございました。

1946年外科医院を開業し、1973年、九州で初めてマンモグラフィを導入してからこれまで乳がんを中心とした女性医療体制を整えて参りました。昨年5月、医療法人ブレストピアと業務提携し、さながらブレストピアヘルスケアグループを設立、また同月シーメンス・ジャパンとパートナーシップを締結し今年より新たな取り組みをスタートして参ります。

1月には、国内で初めてシーメンス製ハイエンド超音波画像診断装置「ACUSON S Family HELX Evolution」シリーズ5台を導入し、稼働を開始しました。

当診断装置はしこりの有無や形状だけでなく、「硬さ」や「柔らかさ」も画像化・定量化することができる機能を搭載しており、これらを併用することでさらに精度の高い診断と経過観察に貢献できます。「硬さ」の情報が加わることにより、検診で乳がんを疑われた場合の不要な病理検査を減らせることも期待できるなど、体に優しく質の高い医療を提供いたします。

今年も当院の理念「共に在り、共に歩む」を使命とし研鑽を積んで参りますので、相変わらぬご厚誼を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

社会医療法人 博愛会 相良病院

健診・地域事業部

乳がん・子宮頸がん集団検診研修会

10月23日、がん検診受診率50%達成に向けて「第1回乳がん・子宮頸がん集団検診研修会及び地域連携懇親会」を開催いたしました。鹿児島県全域の市町村へご案内し、内離島を含む18市町村23名、医療機関を含め46名の参加がありました。

第1部では専門医師による子宮頸がん検診についての講演、ランチミーティングでは、SH方式集団検診の仕組みをご説明し、第2部は乳がん検診に関して近年の検診内容の傾向と、専門医師による乳がんの最新医療情報、放射線技師による超音波検査の有用性についてお話させていただきました。

また第3部がん検診受診率50%に向けたグループワークでは、他市町村での苦労していることや新しい情報などを交換するなど大変活発な意見がありました。それぞれのグループ総括を発表していただき、今後のがん検診受診率アップを目指す全員のやる気を感じることができました。

次回は2016年8月開催を予定しています。さらに多くのがん検診担当者みなさんにご参加いただき、がん検診の質の向上と各市町村との連携を深めていきたいと思っております。

共催：公益社団法人 鹿児島県労働基準協会 ヘルスサポートセンター鹿児島
社会医療法人 博愛会 相良病院



就労支援事業

NPO主催 ワーキング・サバイバーセミナー

「がん経験者の働き方・支援のヒント」

11月18日、NPOが受託した平成27年度鹿児島県地域貢献活動サポート事業の助成事業として、ワーキング・サバイバーセミナー「がん経験者の働き方・支援のヒント」が開催されました。

がん経験者であり、現在就労支援活動を目的とした「一般社団法人 CSRプロジェクト」「CANSOL キャンサー・ソリューションズ株式会社」を運営されている桜井なおみさんの基調講演では、国のがん対策、がん体験者の働く現状、がん経験者の心に関する調査を元に、介入のタイミング、がんの就労成功のヒントをお話いただきました。

基調講演のあと、鹿児島大学病院 腫瘍センター長 上野真一先生、相良病院 総看護部長 江口恵子を座長とし、参加97名の方とディスカッションを行いました。

また、鹿児島労働局から長期療養者就職支援の事例報告もあり、参加者された患者さん、企業、社労士、行政、医療者、それぞれの立場で相談支援の在り方を共に学び合うよい機会となりました。

主催：NPO法人 あなただけの乳がんではなく

共催：鹿児島大学病院 腫瘍センター・社会医療法人 博愛会 相良病院

協賛：鹿児島労働局 後援：鹿児島県



第38回 サンアントニオ乳癌シンポジウム レポート

乳腺科 相良安昭



2015年12月初旬に米国テキサス州サンアントニオにおいて、乳癌の国際シンポジウムが行われました。このシンポジウムは1977年に始まり、当時は数人の地元医師がホテルの一室を借りて行っていたそうです。現在では90カ国以上の乳癌医療に携わる医療者や臨床研究、基礎研究に携わる研究者が集まる世界最大の乳癌に関する国際学会となりました。乳癌診療が変わ

る可能性のある質の高い臨床試験や研究の結果が数多く発表され、乳癌治療の専門家にとって非常に重要な学会のひとつです。

今回、日本からも診療を変えるインパクトのある研究結果が京都大学乳腺外科学講座の戸井雅和教授より発表されました。今までの臨床研究で、術前化学療法後に乳癌が完全に消失していない症例は、消失した症例よりも乳癌の再発リスクが高いことが分かっていました。そこで2007年から、術前化学療法後に癌が完全に消失していなかった方を対象に、ゼロダという経口抗癌剤を手術後に6ヶ月内服することで再発率が減少するかということを検討した臨床試験が行われました。この試験に910名の方が参加し、結果ゼロダを追加内服された440名の方は、今までの標準的な治療を受けた445名の方と比べて再発率が30%減少しました。また、ゼロダによる副作用も許容可能なものであり、この結果は世界各国の専門家の大きな注目を浴びました。この試験へは私たちの病院からも多くの患者さんが参加され、忙しい日々のなか治験管理室や病院のスタッフと一緒に試験に携わってきたので、このような良い結果はひととき嬉しく思いました。



共同研究者とのミーティング

効果があることを示唆する結果を得ることができました。DCISの再発リスクに応じた個別化治療の可能性を示したのは世界で初めてで、この結果はJournal of Clinical Oncologyという臨床腫瘍学を代表するジャーナルに掲載される予定です。

日本においても医療のビッグデータを利用して、目の前の一人ひとりの患者さんに対する最善の治療を提供出来るようなシステムが作られるように、今後取り組んでいく必要があります。

私たちは米国がん登録データベースを解析し、非浸潤がん(DCIS)という超早期乳癌のどのような症例に対して、乳房温存術後の放射線治療が必要かというのを検討し発表しました。まず手術後の局所再発のリスクとなる因子を用いた予後スコアを利用し、約3万2千症例のDCISをスコア別に分類しました。局所再発のリスクが少ない症例では放射線治療を行っても生存率の改善を認めませんでしたが、リスクが高い症例に放射線

治療を行なうことで生存改善



四元医師ボストンの同僚たちと

研修会 *Report*

がん診療連携拠点病院研修会「放射線治療」

2015/12/4 (fri)

がん診療連携拠点病院研修会「放射線治療」は、がん診療に携わる全ての医療従事者が放射線治療について基礎から最新の内容まで理解し、知識と技術を習得することを目的としています。院内のみならず院外の連携病院を対象に今年度から始めた研修会です。今回は記念すべき第1回目の研修会であり、放射線治療のエキスパートであり、乳癌診療ガイドライン「放射線療法」の作成にも携わっている滋賀県立成人病センター 山内 智香子 先生をお招きして、乳癌診療における放射線治療の歴史から最近話題のAPBIやリンパ節領域の治療など最新の情報と現状についてご講演していただきました。日常臨床で役立つ内容が多く、大変充実した研修会になりました。



リンパ浮腫患者会

2015/11/15 (sun)

リンパ浮腫の患者さんは、乳がん体験者の中にあっても、自分だけがこんな症状を抱えているのではないかと孤独感を感じる方がおられます。医療者 患者間だけでは解消できない想いを感じ、2013年よりリンパ浮腫患者会を始めました。初めは緊張して参加される方も、お互いの語りを通して、自分だけではないと言う安心感が得られるようです。多くの方が体感される肩周辺の浮腫を語る方がいれば、全員が頷きあう瞬間もあり、暖かい笑いが起こることもあります。交流会とは別に、異なるテーマで勉強会も実施しており、毎回興味を持って参加いただけるように工夫もしています。手探りでの継続ではありますが、今後も皆さんの集まれる場として継続できればと思っています。



特定領域がん診療連携拠点病院
へき地医療拠点病院
社会医療法人 博愛会 相良病院

〒892-0833 鹿児島市松原町3-31
TEL.099-224-1800
FAX.099-224-3921
www.sagara.or.jp